

教育広報

かけはし

第5号 平成4年7月10日発行

発行 千代田区教育委員会



みんなで協力してジャガイモ植え

主
な
記
事

◎特集“目前に迫った学校週5日制”

◎たのしい夏休み
—幼稚園 夏季保育—

◎千代田区・ニューヨーク市・
孺恋村中学生交流会

◎孺恋の自然を体いっぱいに
—小学校 自然体験交流教室—

◎軽井沢少年自然の家愛称募集

山の頂に雪が残る5月中旬、小学
校8校の5年生は、2泊3日で孺恋
村を訪れました。

豊かな自然、澄んだ空気の中で、
地元5校との交流、農作業、自然観
察と、千代田区内では味わえない素
晴らしい体験をしました。

目前に迫った学校週五日制

子ども一人一人がゆとりを持って充実した生活を――

文部省は本年三月の通達で、平成四年九月から全国一斉に毎月第二土曜日を休業とする学校週五日制の実施を発表しました。千代田区教育委員会は、これを受けて、保護者・地域社会の皆様のご理解とご協力をいただきながら、幼児・児童・生徒の健全育成に努めてまいりたいと思います。

学校週五日制については「休みの日が増えるだけ」という見方もありますが、これを機に、これまでの教育を見直し、急激な社会の変化に対応して「心豊かに、たくましく生き抜く人間」を育てるために、学校・家庭・地域社会が新たな気持ちで教育に取り組むことが大切です。そこで、みんながどう対応していったらよいか考えてみましょう。

なぜ学校が週五日制になるのか

☆ 身近な事柄に興味・関心を持ち、問題を意欲的に追求できる人間を育てることが重要です

科学技術が進歩し、社会が急速に変化する現代においては、学習すべきことをすべて学校で身につけることは困難です。生涯にわたって学び続けることが必要な時代です。した

がって、そのための物事に対する興味・関心、解決しようとする意欲、問題を解決するのに必要な能力などの基礎を、学校教育を受けている間に、しっかりと身につけることが大切です。

それには、学校の中だけでなく、家庭や地域における生活体験、自然体験、社会体験を豊かに持つことが必要です。その時間を確保するのが学校五日・家庭二日制です。



空き地の植物にも不思議なことがいっぱい

☆ 子どもたちはゆとりのある生活を求めています

最近の子どもの行動には、はじめ、暴力、無気力さ、粘りのなさ、逃避などの問題行動が目立ちます。その原因には、過保護や放任、醒めた人間関係、心の教育の欠如など様々なことがあります。子どもの生活にゆとりがないことも大きな原因です。子どもたちの大部分は学校週五日制に賛成しています。理由として、

- 親と一緒に楽しむ時間が増える。
- 友だちと遊ぶ時間が増える。
- いろいろな活動に参加できる。
- 自由に使える時間が増える。

などを挙げています。



地域の方々の指導で小・中学生と一緒に調理実習

子ども自身も、日々の生活の中で、人間関係の希薄さ、変化の少ない行動、時間的なゆとりのなさに満足していないことが感じ取れます。一方、親の方でも、子どもが机に向かっていれば安心という傾向が見られます。私たちは、豊かな心を持ったたくましい人間に育つことを期待しているのですから、子ども自身が自主的に行動できる場と機会を確保してあげることが必要なのではないでしょうか。

遊びやスポーツ、音楽や絵に親しむ、自然に触れる、地域の行事や活動に参加する、奉仕的活動を行うなど、子どもが自分の趣味や特技を生かし、興味・関心を持って行動できることが、本当のゆとりのある生活です。人間形成に役立つ活動だと思ふのです。

子どもの活動の場を広げる工夫

子どもの自主的・自発的な活動を認め、励まし、ゆとりのある充実した生活を送るといっても、大人が心配することは、

- 無駄に過ごす時間が増えるのではない
- 非行や問題行動が増えるのではない
- 学力が低下するのではない

これらの心配を解消するには、まず、親として援助できることは何かを考えてみましょう。その上で、地域の人々の協力、行政の援助を求めるようにしたいものです。他に依存する前に、「我が子の教育は自らの手で」という努力が必要なのではないでしょうか。

☆ 親子の触れ合いを豊かにする工夫をしましょう

親子の触れ合いというと、どこかへ出掛けるとか、物を買って与えるとかということが頭に浮かんできます。子どもたちにとって、このようなことも嬉しいことですが、もっと身近なことでも、十分楽しいのです。親子一緒に掃除、洗濯、片付けな



母親の見守るなか初めて包丁をにぎる

☆ 地域の文化施設・体育施設を活用しましょう

親子の触れ合いも、家の中だけでは限度があります。近くにある美術館・博物館・資料館・水族館・動物園・プラネタリウム・公園・体育館・プールなどを利用すれば、活動の内容が豊かになり、いっそう楽しくなることでしょう。

☆ 地域の行事や活動に参加しよう

地域では、町会や自治会、子ども会、ボーイスカウト・ガールスカウト、海洋少年団、交通少年団、伝統芸能を継承する団体等が、様々な行事や継続的な活動をしています。祭りや縁日、ゲーム大会など、楽しいものもありますが、訓練や町の清掃・資源再利用活動・老人ホーム訪問など、自らを鍛える活動や奉仕的な活動などもあります。



☆ 地域の子どもは地域の大人がしっかり守り育てましょう

地域の行事や活動を支えているのは、地域に住む人々です。最近では、プライバシーの尊重とい

年齢による休日の過ごし方の指導

子どもの自主的・自発的な活動を促すといっても、その内容・質は年齢によって違います。幼児に、自分で考え、進んで行動しろといっても無理なことです。子どもの発達段階に合わせた計画的・継続的な指導が必要になります。

☆ 親子で共に楽しみます（幼児）

親子が向き合い、相互に心を通わせ合える姿勢で、一緒に行動することが大切です。

また、同年齢がごく近い年齢の子との遊びが、子どもの心と態度を育てるのに有効です。その際、親同士の理解と協力が必要です。

☆ 時間の上手な使い方を、体験を通して身につけさせます（児童）

異年齢の友だちと遊ぶ経験の少ない子どもたちにとって、新しい遊びや人のためになる活動を、自ら生み出すことは困難です。

そこで、伝承遊び、伝統文化や史跡・伝統芸能に親しむ、体力づくり、自然体験、奉仕活動など、子どもの実態に応じて、様々な活動を体験させ、その体験を通して、自分に合った活動を、自分で選択していくことができるようにしていきます。



☆ 子どもが自ら考え、判断し、行動する力を伸ばします（生徒）

中学生にもなると、判断力もつき、自分の行動に責任が持てるようになります。自分のやりたいことを自分で計画し、実行する時間を中心にし

たいものです。その力や行動を信じ、援助をすることが必要です。

学校週五日制に慣れるまでは、親や先生が、子ども一人一人の行動の様子をしっかり把握して、個別に指導・助言をしてあげるようにしましょう。

子どもたちの活動を広げる援助

子どもたちの自主的・自発的な活動を促すために、千代田区としては、次のような援助を積極的に進めます。

☆ 学校の施設を開放します

これまでも、土曜日の午後・日曜日と祝日に小学校の校庭を開放してきました。

九月からは、土曜休業日の午前中も、小学校の校庭を開放するとともに、必要に応じて特別教室も利用できるようにします。

☆ 区立の体育施設を週五日制のために開放します

土曜休業日の午前中、学校または地域単位で子どもたちのために行う活動に対して、次の体育施設を優先的に利用できるようにします。

○ 総合体育館の主競技場（バドミントン、バレーボール、バスケットボールなど）・卓球場・相撲場・柔道場・剣道場

○ ちよだパークサイドプラザの温水プール

*

○ 総合体育館の温水プールについては、土曜休業日の午前中、児童・生徒に開放します。

（定員を超えない限り、泳力などによる入場制限はしません。）

☆ 児童・生徒向けの講座やイベントを行います

子どもたちの生涯学習という観点から、生涯学習振興課が中心となって地域の関係団体の協力を得て、土曜休業日の午前中に次のような活動を予定しています。

- 物づくり教室
- ネイチャー・ウォッチング
- 郷土訪ね歩き
- サブウェイ・チャレンジ
- 絵画教室
- 親子料理教室

☆ 映画会、フィルムの貸し出し等を行います

土曜休業日の午前中に、千代田図書館・四番町図書館主催の映画会を行います。

また、16ミリフィルム、8ミリフィルムおよび映写機の貸し出しも行っていますのでご利用ください。8

月下旬および11月中旬には、16歳以上の方を対象に16ミリ映写機の実習会を予定しています。

☆ ボランティア人材名簿を作ります

土曜休業日における地域での活動の定着を図るには、その指導や援助を行うボランティアを確保することが不可欠です。そこで、生涯学習振興課が学校等の協力を得て、ボランティアとして協力してくださる方のリストを作成し、各校に配布します。学校等を通じて調査用紙をお配りしますので、ご協力いただける方は、氏名・住所・電話・種目・内容等をご登録ください。

☆ 近くの文化施設・体育施設等の情報を提供します

休日の過ごし方の例を紹介したり、区内および近隣の文化・体育施設や名所・旧跡等についてまとめたりした手引書を作成して、各家庭や学校に配布する予定です。

区では、地域や区民団体・学校などと連携し、学校週五日制推進のための組織づくりを行い、いっそう充実した方策を進めるための体制を整えています。

千代田区・ニューヨーク市・婦恋村中学生交流会

ニューヨーク市との海外交流は、今年で五年目を迎え、五月十六日より十一日間の日程で、パウロ中学校の生徒十名が日本を訪れました。ホームステイの合間に、滞在している家庭の中学生とともに、群馬県婦恋村へ出かけ、地元中学校生徒との交流を行いました。

自然休養村での交流

五月二十日の午後、東中学校・西中学校の生徒二十名と千俣小学校六年生の太鼓演奏に迎えられて、休養村に到着しました。

夜の婦恋村主催のレセプションには、森田村長も出席し、日米の生徒四十名が、和やかな一時を過ごしました。



西中学校との交流

翌二十一日には、西中学校を訪問し、一、二年生全員（三年生は修学旅行中）との交流を行いました。記念品の交換や、ブラスバンドの



たのしい夏休み

幼稚園夏季保育

三歳児にとって、生まれて初めての夏休みがもうすぐやってきます。入園してから約三か月、大人とだけ遊びや、一人遊びからようやく抜け出し、友だちとの遊びが楽しくなり始めてきました。また、遊びの内容も多様になってきました。こんな時期に夏休みを迎えるわけです。

◀ 様々な材料を使って工夫して作る

絵本に親しみ夢を広げる▶



各幼稚園では、主に夏休みの前半に「夏季保育」を実施しています。暑い日が続きますので、活動の大部分は水遊びです。水に親しみ慣れることが中心ですが、活動の過程で水を使った様々な遊びを工夫することや、友だちとのかかわり方を豊かにすることをねらいにしています。四歳児、五歳児にとっては、昨年の体験が生きて、自ら目的を持って行動するようになります。

幼稚園によつては、製作活動や親子で読書、ゲーム、遊戯、料理、草花栽培などの活動を楽しんでいます。休み中の親子の触れ合い方をいろいろ工夫したり、多くの人とかわるようにしたりすると、二学期になって、先生が目を見張るほど変身していることでしょう。

婦恋の自然を体いっぱい

一 小学校 自然体験交流教室

昭和六十三年、千代田区と群馬県婦恋村とが姉妹都市の縁組をしました。これを機に、豊かな自然に接する機会の少ない区内小学校の児童を対象に、平成二年度より「婦恋自然体験交流教室」の試みがスタートしました。自然観察や農業体験等を通して、自然の素晴らしさを味わい、自分から進んで学習する態度や能力を身につけます。また、婦恋村の小学校五校との交流を行い、多様な人間関係を体験します。

試行期間中の本年度は、淡路・干校・小川・西神田・麴町小学校（学校間交流が中心）、富士見・錦華・佐久間小学校（農業体験が中心）の八校の五年生、三三五名が参加しました。



さくのきり方を校長先生から直接指導を受ける子どもたち



清流でカワマスのつかみどり

婦恋での農作業

小滝 葉子



広々とした畑(約1,292㎡)にジャガイモ、トウモロコシ、キャベツを植える

「よいしょ。重たいなあ。」
 生まれて初めて持ったくわが、とても重く感じました。野菜の苗を植える農業体験で、婦恋村にやってきました。
 周りは見渡す限りキャベツ畑です。遠くには浅間山がそびえています。農家のおじさん先生に「ちゃんと頑張って耕してね。」と言われました。
 くわを振り上げ、よいしょとおろしても、なかなか思う所にはいきません。何度も何度も繰り返し、汗をかきかきやっとうねを作り、やっとなにやらを植えました。



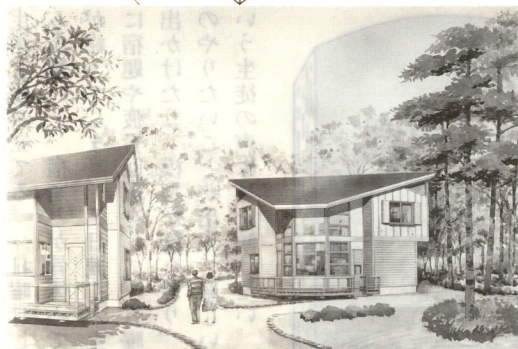
楽しかった交流を終え 婦恋の友だちとお別れ

来春、軽井沢に新しい施設オープン

(軽井沢少年自然の家 第2期整備)

あなたのアイデアで すてきな“愛称”を！

文化・スポーツ活動や余暇・保養に利用できる新しい施設が、来年4月軽井沢にオープンします。場所は、中学生の皆さんには移動教室や夏季施設でおなじみの「軽井沢少年自然の家」の向い側で、JR中軽井沢駅から徒歩で25分のところ。さわやかな緑あふれる木立ちの中に、家族やグループでも利用しやすいコテージ棟を4棟建設します。その中央には、研修をはじめ、さまざまなレクリエーションに活用できる多目的スペースをもったパブリック棟を設けます。生涯学習の時代を迎え、皆さんの幅広いニーズに応えられるグレートの高い施設づくりを目指しています。
 そこで、この新しい施設に、皆さんが親しみやすい愛称をつけていただきたいと思います。



コテージ棟（木造の別荘タイプ 平屋建て2棟、2階建て2棟）



パブリック棟（宿泊室4室、研修室、食堂、ラウンジ、浴室などが設けられます）

愛称のイメージ

- * 利用者にとつて親しみやすい愛称
- * 研修・スポーツ・レクリエーション活動の拠点にふさわしい愛称
- * 豊かな自然に恵まれた静かな環境にある施設としてふさわしい愛称
- * テニス・ゴルフ・スキー・スケート・サイクリング・ハイキング・森林浴・ハードウオッチングなどが四季を通じて楽しめる軽井沢という土地にふさわしい愛称

【応募方法】

(一) 学校で応募する方法

各小・中学校に応募用紙と受付箱を設置しますので、愛称を記入し、受付箱に入れて下さい。

(二) 郵送等による方法

所定の応募ハガキまたは官製ハガキに、愛称・住所・氏名・年齢・電話番号を記入して千102千代田区九段南一六十一・千代田区教育委員会庶務課計画係へ郵送して下さい。なお、応募ハガキは、各出張所・九段社会教育会館・総合体育館・千代田図書館・区政案内相談コーナー（区役所一階）・教育委員会庶務課（区役所三階）で配布しています。応募ハガキ配布場所に設置してある受付箱に投函していただいても結構です。

◆ 期 間

7月15日(水)～9月5日(土)

◆ 発 表 10月下旬の予定
 ◆ 問合せ 教育委員会庶務課計画係

随想

きょういく

学校週五日制というと、すぐ「労働時間の短縮」が問題にされる傾向がある。しかし実際には「自分で考え、判断し、進んで行動する子どもを育てる」という「教育の見直し論」も土台になっている。したがって「大人の問題」だけでなく、子どものための「五日制」でもあると考えることが大切である。

練成中学校では、平成二年度から二年間、文部省の調査・研究協力校として土曜休業を実施してきた。様々な危惧と不安はあったが、試行の結果、月一回程度なら「現在の授業時数は確保できる」「子どもの学習負担は過重にならない」「学校と家庭・地域社会の連携によって、子どもを生き生きと活動させられる」という三つの見通しを持った。

根強い学校依存

「学校週五日制」の足を引っ張りそうなものが二つある。第一は学校が休みになる午前中が、子どもに空白とならないように「何をさせるべきか」と、土曜の午前中だけに焦点を当てている考え方である。子どもは土・日の休みを一つのセットとして

生活を組み立てる。「日曜日しか休みが無いと、宿題とか骨休めで一日が終ってしまふ。二日続く土曜日に宿題や疲労回復をして、日曜日は出かけたり、模型が作れたり、自分のやりたいことが出来て楽しい」という生徒の声に耳を傾けたい。土曜

子どものための「学校週5日制」



前 練成中学校長
青 柳 健 一

日の午前中しか眼中にない親は、その時間が空いてもつたないから、学校の代わりに塾の特別補習に行けということになる。土・日に休養や余暇の活用で心身の元気を回復し、次の月曜から金曜までの一時間一時間の授業に集中力、持続力を高めて

臨む。これが学力向上の基礎・基本であることを忘れてはならない。

第二は親の強すぎる学校依存である。新聞に若い母親の声が載っていた。「週休二日になると、それだけ子どもに手がかかり、自分の時間が少なくなるのが心配だ」子どもを幼稚園や学校にゆだねようとする傾向が増加してきている。親子の触れ合いを基盤にした「家庭教育力回復」の努力が続けられないと「子どものための五日制」は遠のいてしまう。

心の受け皿

「受け皿」という言葉は感心しない。物質的イメージから、施設や外部団体のボランティア等だけに意識が先行してしまう。「この前の土曜は、お母さんと久し振りに買い物に行つても楽しかった」これも立派な土曜休業の過し方である。やはり基本は家庭にあると思う。それに加え、地域には子どもが自分で選べるプログラムが用意してある……と考えてもらうことが大切であろう。

あおやぎ けんいち
千代田区教育委員会
教育研究専門員

編集後記

あと十日程で、子どもたちが楽しみにしている夏休みに入ります。休み前には、その時間の使い方をいろいろと考えるのですが、実際には、計画した通りにはなかなかいかないものです。

本号では、学校週五日制を取り上げましたが、自分の時間を有効に使う能力・態度は、変化する社会で生きていく上で必要な資質です。

九月からの第二土曜日のことだけを考えるのではなく、夏休みも含めて、その過ごし方を工夫しましょう。小学校の農業体験をご指導くださった婦恋村交友会の方々が、夏休みに、ジャガイモやトウモロコシの様子を是非見に来てくださいと話していました。

皆様のご意見・ご感想・ご要望をお寄せください。お待ちしております。

教育広報「かけはし」第五号
平成4年7月10日発行
編集発行/千代田区教育委員会
〒102 千代田区九段南1-6-11
☎(03)694)0151 内3114